



# 海や川に親しみながら環境について考えよう B&G海洋環境教室

第5回



【担当：教育委員会事務局 平山】

## 海藻の種類と役割について学ぶ

第2回目に磯の生物を観察し、第4回目のスノーケリングでは実際に海の中から観察。今回（9月28日）は、その海藻の標本づくりにチャレンジしました。

当日もB&G財団の職員が講師として来町し、磯での注意点のおさらいを行ったあとに観察と採取を始めました。

まず、児童たちが驚いたのは、第2回目（6月）と同じ場所なのに、タイドプール（潮だまり）にいる生物の違いでした。「背中の青い魚は何？」「前に来た時より小さい魚が沢山いる。」「イソギンチャクが少なくなってる。」などさまざまな違いを発見！ちなみに「背中の青い魚」はカタクチイワシで、児童たちも生きているいわしを見るのは初めて！カタクチイワシの生態系などを調査すると、ヤマメとサクラマスの違い「なぜ大きさが違うのか？」の疑問解決の一端になりそうですね。

海藻（7～9種）の採取を終えて学校へ戻り、標本づくりの開始です。海藻の塩抜き⇒バットへの水張⇒ケント紙への海藻貼り付け⇒水切り⇒乾燥の手順で行いました。

海藻の貼り付け作業を行っているとき、小さな貝や擬態を模している虫を発見！なぜ、「海に海藻が必要なのか？」「この虫は、なぜ擬態をしているのか？」、海藻や虫の様子を観察し考えてみることにしました。

海藻の貼り付けに工夫を凝らして作った標本、完成が楽しみです。最後に、自分たちの磯での行動を振り返り、「海へ落水した人・溺れている人を発見したら？」「潮の満干」などスライドを見ながら再確認し、ログブックへ疑問点などを記載し授業は終了しました。



磯の海藻を採取



海藻の標本づくり

## マリンキャンドルの作成実習

マリンキャンドル（砂や貝殻を入れたジェルキャンドル）の作り方を実習しました。

長江校長をはじめとする教諭10名が、11月～12月にかけて取組む海洋学習の事前研修ということで、学年に合わせたジェルキャンドル作成手順や注意点を確認し作成しました。出来栄はいかに？？

◀先生たちも事前研修を開催



アイガモ米のできるまでを興味深く観察

収穫したお米が白米に変わるのを興味深く見守る子どもたち

9月23日、「瀬棚町有機部会 稲作専門部」(会長・高橋利治)と健康料理教室「味彩倶楽部」の共催で、瀬棚町の特産品であるアイガモ米の収穫体験イベントが開催されました。

これは、アイガモ米がどのように作られているのか、知ってもらおうということから企画されたもので、7月にはアイガモと触れ合う「アイガモ交流会」も開催されており、今回のはその続編となります。

当日は、料理教室でアイガモ米を利用して「味彩倶楽部」の参加者などが子どもたちと参加し、実際に稲刈りの体験などを行いました。

参加した子どもたちは、自分たちが収穫したお米が白米になるまでの過程に興味深く観察し、最後は新米のおにぎりを食べながら交流を深めました。(瀬棚産新米の購入・お問い合わせは、JA新はこだて瀬棚支店営農生産課 ☎01378・7・2501)

「職場を支えるあの人の 最低賃金大丈夫？」

## 北海道最低賃金

北海道内で事業を営む使用者及びその事業場で働くすべての労働者(臨時、パートタイマー、アルバイトなどを含む)に適用される北海道(地域別)最低賃金が次のとおり改正されました。

- 最低賃金額/時間額 **638** 円
  - 効力発生年月日/平成16年10月1日
- ※日額は廃止され、時間額のみとなっております

北海道労働局 労働基準監督署(支署)

